

質問項目 ▶ 公共交通について

# 交通弱者の公共交通とは

齋藤和也

(創成)



## さらなる利用維持と利便性向上に努める



録画映像

**問** 燕市の交通空白地域  
の該当地域について  
伺う。

**答** 現在ドア・ツー・ド  
アで移動できる「お  
でかけきららん号」が市内  
全域で利用可能であること  
から、交通空白地域はない  
ものと考えている。

**問** 今後のきららん号の  
展望について伺う。

**答** 運行するタクシー事  
業者の民業圧迫のお  
それもあり、増便は難しい  
と考えている。路線バスや  
コミュニティバスとの役割  
分担を図りながら、課題解  
決に努めていく。

**問** 燕市は複数の交通  
手段が整備されて  
いるが、鉄道駅やバス停  
留所から遠い集落や高齢  
化が進む地域では、交通  
空白地帯が依然として存  
在している。また、公共交  
通が整備されていても、実  
際に使えるかどうかは大  
きな地域差があり、特に  
免許返納後の移動手段の  
確保が喫緊の課題である。

**問** 公共交通の利用促進  
に向けたPR活動に  
ついて伺う。

**答** コミュニティバス沿  
線の自治会へ利用促  
進を図る周知チラシを配  
布するほか、令和6年度  
に公共交通フェスタを実施  
し、公共交通を身近に感  
じてもらいながら利用促  
進を呼びかけている。



図：公共交通の利用促進に  
向けたPR活動について  
(燕市公共交通フェスタ)

質問項目 ▶ 地域活性化 人生100年時代

# 地域活性化に向けて、現状は

藤井秀人

(新風みらい)



## 活力は減退してきていると感じられる



録画映像

**問** 間もなく来年3月  
に市政合併20周年  
を迎えるが、地域の活力  
が減退していくと市全体  
が衰退していつてしまう。

**答** 地域の活力が減退し  
ていると感じている  
が、どのような認識を持っ  
ているか伺う。

**問** 今後地域運営コミュ  
ニティを担う組織は、  
どのような形が望ましいか  
伺う。

**答** 地域運営を担うコ  
ミュニティとして想  
起されるのは自治会や、ま  
ちづくり協議会であり地域  
住民が主体的に参加し、継  
続的にできることが望まし  
い形だと考えている。

**問** 高齢者が社会を支  
えていく状況に  
なっていく中、高齢者団  
体に対するケアも重要と  
考えるが。



人生100年時代に向けて  
高齢者も社会の支えに

**問** 高齢者団体に対し  
ての補助金の実情と今  
後の見直しを考えているの  
か伺う。

**答** 老人クラブ、介護予  
防・生活支援サービ  
ス補助金、シルバー人材セ  
ンター運営費補助金、ふれ  
あいサロン等の支援があり、  
適時適切に対応してい  
きたい。

### 高齢者団体への 支援の拡充は

質問項目 ▶ 女性の健康 PTAについて

# 女性の健康を守る取り組みを

高橋妙子

(創成)



## 今後も一層推し進めることが重要



録画映像

**問** 市民に対しての更年  
期障害の周知啓発及  
び支援体制は。

**答** 令和2年度から子宮  
頸がん検診を全ての  
施設検診にすることで産婦  
人科のかかりつけ医を持つ  
ことにつなげ、更年期障害  
についても相談しやすい環  
境づくりをしている。

**問** 子宮頸がん検診の意  
義と必要性をどう考  
えているか。

**答** 早期発見、早期治療  
につなげることで子  
宮頸がんによる死亡率を減  
少させるために重要である。  
また、国の指針では2年に  
1回の受診となっているが、  
燕市では20歳から39歳まで  
は毎年、子宮頸がん検診の  
受診体制を整備している。

**問** 女性の活躍を推進し  
ていくと同時に、女  
性の健康をマネジメントす  
る取り組みが必要なのは  
ないか。

**答** 健康増進に向けた啓  
発のため、県内市町  
村に先駆けて中学生や高校  
生などの各年代に対応した  
プレコンセプションケア事



令和5年度プレコ  
ンセプションケア事業

女性の身体についての理解を  
深めるためのプレコンセプ  
ションケアセミナー

業を女性に限らず実施して  
いるが、女性については一  
度に複数の検診が受けられ  
るプレコンセプションケア  
検診やセット検診などを実  
施している。女性ならではの  
健康問題を解決していく  
ため、今後も女性向け、企  
業向けの取り組みを推し進  
めることが重要。

- 女性の健康
- 公共交通
- 地域活性化
- 医療用補正具
- 地域福祉計画
- 農業問題
- 人手不足
- 県央基幹病院
- 産業構造
- 道路標示劣化
- 再稼働問題
- 政策達成度
- 農業再生
- ワクチン接種
- 県央広域連携

P.13 P.13 P.12 P.12 P.11 P.11 P.10 P.10 P.9 P.9 P.8 P.8 P.7 P.7 P.6

議員が独自の視点で市に考えを聞く一般質問は今回15名が登場。  
15のキーワードから興味あるページへどうぞ。議員の解説も必見です！  
(一般質問全編は各議員のQRコードから録画映像でご覧いただけます)

気になるキーワード  
どれですか？



マークがついた枠内は、議員が質問の背景や説明をまとめたものです。

マークしてある質問項目は本文に内容を掲載しています。

質問項目 ▶ 農業問題 市長の政治姿勢

# 農業問題の今後について

つちだ のぼる  
**土田 昇**  
(日本共産党議員団)



## 答弁 農地経営が維持できるように努めていく

**問** 今年のコメント不足の原因をどのように見ているか。

**答** 昨年の作況指数は間違いであったと思うがどうか。

**問** 新潟県の作況指数98の「やや不良」は、農家のもっと少ないと思う実感としては、少し乖離があると思う。

**答** 農林業経営体調査に基づいて、現地確認する必要があると思うがどのように対応するのか。

**問** 今年2月1日を調査期日として実施された2025年農林業センサス、農林業経営体調査は5年ごとに実施されている。昨年の大豆やほかの作物の作付面積はどうか。

**答** 大豆が270ヘクタール、野菜が112ヘクタール、果樹が8ヘクタール、花卉(かき)が5ヘクタールとなっている。最新の新聞報道では、今年の米価の価格が予想されているがどのように感じているか。



作況指数の実態は

**問** 一般コシヒカリの仮渡金60キロ2万8000円以上を目標としていると承知している。

**答** 国や県は大規模経営を示しており、「大規模経営だけでは農地は守れない」と言ってきたがどうか。

**答** 大小規模経営にかかわらず、農地経営が維持できるように努めていく。

質問項目 ▶ 中小企業、小規模事業者の人手不足、後継者不足問題 空き家問題

# 人手不足にどう挑む!?

いなむらたかゆき  
**稲村 隆行**  
(創成)



## 答弁 支援事業を確実に周知していく

**問** 現在、中小企業や小規模事業者は担い手不足、エネルギー高、人件費高騰など、様々な課題を抱えている。その中で人手不足について、市内の事業者からは「設備があっても人手が足りない」等、今後の事業継続に不安の声が上がっている。

**答** 業種は販売業の有効求人倍率が6倍程度。また、建設業も5倍程度で、緊急度が高い。規模は特に10人以下の小規模事業者が人材不足となっていると承知している。

**問** 「DX相談窓口」は、人手不足を解消したい、働き方を改善したい等の事業者の悩みを無料で支援する素晴らしい取り組みである。しかし、名称に「DX」とあると「うちには関係ない」「難しそう」と思われて、本来であれば支援を必要とする事業者を利用されない。



小規模事業者は数も多く、地域経済や雇用の安定に直結するため、重点的な支援が必要

**問** ことが考えられる。「DX相談窓口」という名称は敷居が高く感じられるため、名称変更はどうか。

**答** 関係団体に意見を聞いて、今後の対応を検討していきたい。

質問項目 ▶ 病気等で外見の変化に苦しむ方の経済的・精神的負担軽減 GIGA第2期における端末の更新

# アピアランスケアの拡充を!

こんどうたかゆき  
**近藤 隆行**  
(公明党)



## 答弁 他の自治体等も調査し検討していく

**問** アピアランスケアとは、手術や治療によって外見の変化に苦しむがん患者をケアするもので、市も支援をしているが、外見の変化に苦しんでいるのはがん患者だけではない。脱毛症等で苦しんでいる市民に対して、支援の拡充が必要である。

**答** 市は脱毛症等で苦しむ方から、支援の相談を受けたことはあるが、受けたこととはあるが、対象ではないと答えた。がん患者同様に、脱毛症等で外見の変化に苦しむ市民の中には子供の割合も高いとされている。他の自治体では支援をしているところもあり、燕市としても支援の拡充が必要であると考えるが見解を伺う。他の自治体を調査して検討していく。

**問** 市内の全小中学校の生徒が使用している端末(PC)が今年度に一齐に更新される。適切な処分と有効活用が必要と考える。

**答** 生徒の個人データなどが流出しないよう適切な処分が必要だがいかがか。

**問** 国の指針に従い適切な処分される大量の端末を生徒の学習に利用したり、分解等を障がい者福祉施設にお願いしてはどうか。

**答** 提案を受けた活用方法も含め検討する。



医療用ウィッグは高価で、脱毛症等で苦しむ方の負担は大きい

質問項目 ▶ 第4次地域福祉計画

# 地域福祉計画の現状と課題

おおしまやすひろ  
**大島 靖浩**  
(創成)



## 答弁 多職種・他機関連携を図り対応

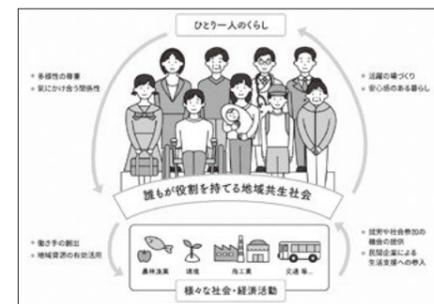
**問** 市民の地域活動やボランティア活動への意欲は低下していることから、各種施策を通して主体的に福祉への理解を深めることができるよう、関係機関や団体と連携して支援体制の充実に努めている。

**答** 福祉教育・啓発活動の取り組み状況について伺う。

**問** バリアフリーフェスを開催し、参加団体の活動紹介や製品の販売を通して福祉の理解促進を図っている。また、学校教育においても手話や点字の授業から思いやり等を育む指導を実践している。

**答** 地域における子供の居場所づくりについて伺う。

**問** 社会全体で子供の居場所になり得る場所を設けることは必要である。こども食堂の開設など、これから居場所づくりに取り組みとしていく人たちの支援を通じて、できるだけ多様な居場所が持てるよう環境整備に努める。



燕市ささえあいプラン  
第4次地域福祉計画  
第4次地域福祉活動計画

出典：厚生労働省

**問** 児童虐待の防止について伺う。

**答** 児童虐待の防止につながるよう、子育て応援課にこども家庭センターを設置し、妊娠から切れ目のない相談や支援体制の充実に努めている。

マークがついた枠内は、議員が質問の背景や説明をまとめたものです。

マークしてある質問項目は本文に内容を掲載しています。

質問項目 ▶ 市道の視認性・安全性の確保 部活動の地域展開

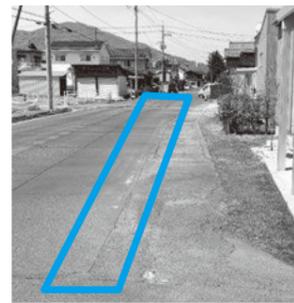
**市道の道路標示の再塗装を!** **岡山秀義** (創作)

録画映像

答弁 **予算の範囲内で可能な限り対応している**

**問** 市道における白線・区画線の劣化状況等をどのように把握しているか。危険度の高い箇所は早急に対応しなければならぬが、どのような基準で補修や再塗装の優先順位を決めているのか。実際に寄せられた自治会や市民からの通報や要望に対して、どのように応えているか伺う。

**答** 除雪車による削り取りや交通量等により、摩擦程度が異なることから、



毎日利用する通学路でも白線が消えている。安全・安心に生活できるよう早急な対応を!

日々の道路パトロールで点検している。自治会や道路利用者からの通報により現地を視認確認している。これらの確認によって危険度、補修修繕の予定などを考慮して優先順位を定め、再塗装を実施している。

質問項目 ▶ 持続可能都市の実現

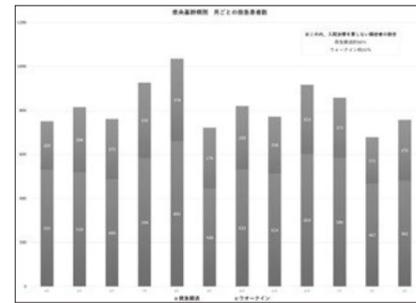
**救急医療を守るための対策は** **小林由明** (創作)

録画映像

答弁 **啓発、リテラシー向上に取り組む!**

**問** 夏は熱中症、冬は感染症で救急患者が増加するが、これらは予防が期待できるものである。時期的な傾向があることから、その時々救急医療の状況を市民と共有しつつ、徹底した啓発が必要ではないか。啓発も必要であるが、救急車を呼ばなかったために重篤な状態に陥る危険もあることから、一人や周囲の方の判断で、速やかな救急利用をしていただきたい。

**答** 県央基幹病院の救急患者数が年間1万件程となっており、救急体制は逼迫状態である。一方、入院に至らない軽症患者数は救急搬送で半数、ウォークイン患者で7割を占め、真に救急医療が必要な人に提供できない深刻な事態が増加するだけでなく、救急医療の崩壊を招きかねない。徹底した周知啓発はもちろぬ、住民の健康を守りQOLを高めるべく、ヘルスリテラシーの向上に力強く注力する必要がある。



入院治療を要さない軽症患者が大半を占め、命に関わる搬送受入が不可となったケースも

**問** 持続可能な医療体制を構築するためにも、市民一人一人が医療資源の有限性を認識し、適切な受診行動と自らの健康増進を心がけるヘルスリテラシー向上の取り組みが不可欠ではないか。

**答** ヘルスリテラシーを高めることがこの問題解決の第一歩だと考えている。

質問項目 ▶ 原発再稼働問題 指定管理施設 マイナンバー保険証

**知事との懇談会にどう臨むか** **長井由喜雄** (日本共産党議員団)

録画映像

答弁 **私は再稼働には賛同できないと伝えたい**

**問** 柏崎刈羽原発再稼働の是非をめぐる県民投票条例は県議会では自民、公明、真政に問うたが否決した。知事は県民対象の公聴会のほか、市町村長との懇談会で意見を聞くとしている。鈴木市長はこの席でどういう立場を表明するのかを問うた。

**答** 県議会では、参考人の今本啓介氏が有効署名14万3196筆を軽視する発言や、「せいぜい自分ごととして考えられるのは隣接市町村までではないか」と述べ、反対した県議もこれらの立場に立ったことは残念だった。態度を明確にしない首長もいる中で、市民の命と暮らしを守る立場から、鈴木市長はどのような姿勢で懇談会に臨むのか伺う。

**答** 3点言いたいと思う。いまだに不祥事が続く東京電力の原発事業者としての適格性に県民の不信感はまだ根強いこと。避難計画の実効性においても、住民が納得できるまでまだ



賛成16、反対36で条例案は否決され、知事は市町村長との懇談会で意見を聞くとしている (写真はしんぶん赤旗提供)

不十分で実効性乏しいというところが2点目。さらに言えば、福島原発の訴訟などを見る限り、万が一重大な事故が発生した場合の国の責任が曖昧な点も気になる。これらの懸念課題が解消されない限り、再稼働に私としては賛同できないということを知事に伝えたい。

質問項目 ▶ 市内産業の労働力 企業誘致の現状 ICT教育の現状

**燕市の将来的な産業構造は** **田澤信行** (新風みらい)

録画映像

答弁 **多様な企業と技術が集積されたまちに**

**問** 燕市内の製造業における労働力は足りているのか、それとも労働力不足に陥っているのか伺う。

**答** 充足度を直接示すデータはないが、直近の有効求人倍率やヒアリングから労働力不足が続いていると認識している。将来の燕市の産業構造に対してどのようなイメージを抱いているか伺う。

**問** 洋食器、ハウスイエアという二つの美しい山にいろいろな加工技術等を持った企業群が集積・連携し、全体として見事な山脈が構成されるようなそんなイメージの企業群で構成されればよいと思っている。

**答** ICT教育によって教育現場は大きく変化している。特に通信環境における不具合等、多くの課題があると思うが、それ等の対策について伺う。

**問** ICT教育によって教育現場は大きく変化している。特に通信環境における不具合等、多くの課題があると思うが、それ等の対策について伺う。

**答** WII-FI環境による不具合については



ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール2025グランプリ受賞製品

今議会の補正予算でネットワークの改善を提案している。また、日々のトラブルや課題等は全学校と教育委員会でも共有し、対応している。今年度、教育委員会では教員向けのICT活用研修を3回計画しており、教職員が必要とするスキルを習得できるように取り組んでいく。

マークがついた枠内は、議員が質問の背景や説明をまとめたものです。

マークしてある質問項目は本文に内容を掲載しています。

質問項目 ▶ 新型コロナワクチン接種による健康被害 新たな敬老事業



# 市長に報告していたのか

タナカ・キン (市民クラブ)



答弁 因果関係が不明のため報告していない

**問** 新型コロナワクチン接種後の健康被害について、国の死亡認定数は現在、1000人を超えている。その中には燕市民も1人含まれている。後遺症に苦しんでいる人は、どれほどいるのか分からない状況である。そのような市民に見舞金を支給できないものだろうか。

**答** 住民基本台帳で確認すると74人である。接種後一週間で死亡した人は1回目5人、2回目4人、3回目5人、4回目4人とこれだけ短期間で亡くなっていると、コロナワクチン接種との因果関係はあると思うが、国は認めようと思わない。因果関係を認めているのはたった2人である。後遺症に苦しむ市民の相談件数について、令和3年度3件、4年度7件、5年度6件、6年度4件、7年度5月末までで1件である。

年代	男性	女性	認定数
10代以下	8	2	10
20代	22	6	28
30代	26	3	29
40代	36	15	51
50代	65	19	84
60代	89	53	142
70代	192	101	293
80代	133	123	256
90代以上	32	69	101
合計	603	391	994

予防接種健康被害救済制度  
新型コロナワクチン  
年代・性別 死亡認定数

出典：  
「おかしくないですか!?  
日本人・謎の大最死  
知ってください、衝撃の事実」  
著者/藤江成光

**問** 副反応や後遺症に苦しむ人に医療費等の経済的負担を支援することを目的に、名古屋市や市川市、県内では新発田市が市独自に見舞金を支給している。検討できないか。

**答** 現在のところ検討していない。

質問項目 ▶ 県央5市町村との連携 重症心身障害児(者)等への支援 不登校対応



# 周辺市町村との今後の連携は

佐野大輔 (新風みらい)



答弁 協力しながら持続的発展が必要と考える

**問** 人口減少が進む中で、これからの人口規模を見据えて、これまで二つの市で行ってきたことや維持してきた施設について、より広域で整理・集約したり役割分担する必要性が考えられる。

**答** 公共施設においては、今後は、県央5市町村など広域での集約化も必要と考えるがいかがか。

**問** 施設によっては、他市町村との統廃合も含めた広域での集約化は検討する必要がある。まずは必要性について市民への働きかけ、意識転換を進めていく必要がある。

**答** 人口減少対策や産業振興など政策も市レベルだけではなく、5市町村での広域連携した政策が今後必要と考えるが、市の考えを伺う。

**問** 広域的な対応が相互のメリットとなる分野では、周辺市町村と協力しながら都市機能の充実や市民サービスの向上を図り、持続的な発展につなげていく。



現在の計画では文化会館は、今後、改築検討期に他自治体との広域連携も検討

**問** 障がいのある方に対して、新潟市が実施している送迎のみの移動支援を燕市で導入できないか伺う。

**答** 新潟市での実施方法を参考に、専門部会や関係部署で協議を行なっている。今後も障がいのある方が、住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう協議を進めていく。

質問項目 ▶ 市長の政治姿勢 所得制限撤廃



# 4期15年半の政策達成度は

渡邊広宣 (市民クラブ)



答弁 議会と市当局の関係と市民に感謝

**問** 4期の選挙を経てそれに伴う所信表明、施政方針で掲げた政策方針の達成度を伺う。

**答** 就任して「燕はひとつ」を合言葉に、一体感の醸成の様々な行政課題に新たな発想とアイデアで取り組み、全国に先駆け人口減少対策を明確に3つの人口増戦略の第2次燕市総合計画を策定した。人口減少社会対応の地方創生を推進し、減少率は低い状況を維持し燕市に住み続けた市民や移住者数、ふるさと納税額は順調に推移してきた。

行財政改革では、公共施設の統廃合や集約、社会教育施設の使用料見直しなど持続可能な改革に取り組んだ。これも議会と市当局の関係と市民の理解と感謝している。



15年間市政の執務を行ってきた市長室

**問** 昨年の合計特殊出生率が1・15%の少子化下の燕市の未来像を伺う。

**答** 人口が減る前提でコンパクトシティの推進と公共施設の適正化の必要があると考える。

**人口減少社会で燕市の未来像は**  
**まち全体を賢く縮めるまちに**

質問項目 ▶ 耕作放棄地対策と農業再生 猛暑対策と公共施設の活用



# 地域農業の未来は

小林秋光 (創成)



答弁 持続可能な燕市農業へ多角支援

**問** 耕作放棄地対策と農地再生について伺う。燕市では現在、12・3ヘクタールの荒廃農地と4ヘクタールの遊休農地があり、若干の増加傾向にある。市は「農地パートナー」や「eMAFF農地ナビ」を通じて状況を把握し、早期発見に努めている。

**答** 農地の再生には時間と労力がかかるため、農業委員会と連携して対応を進めている。

また、新規就農者の確保と担い手の育成を喫緊の課題とし、今年度も「踏み出せ！農業！スタートアップ事業」などで積極的な支援を行い、これらの取り組みにより、耕作放棄地の解消と農業の持続的な発展を目指していく。

**問** 暑さ対策として市の取り組みを伺う。

**答** 夏の猛暑に備え、ウェブサイトでや広報紙に加え、今年度からは健康・医療・子育てLINEで年齢に応じた予防行動を周知していく。



MAFFアプリは、農林水産省が提供する農林漁業従事者向けの公式アプリ。役立つ情報が届く

特に高齢者には地域包括支援センターと連携し、サロンや家庭訪問を通じ啓発と見守りを強化し、水分と三食の食事の際に汁物等での塩分補給を呼びかけている。さらに、公共施設を「おやすみ処涼館」として開放し、今年度も6月から10月まで23か所で開催している。

マークがついた枠内は、議員が質問の背景や説明をまとめたものです。

マークしてある質問項目は本文に内容を掲載しています。